

令和4年度 第3回白井市在宅医療・ 介護連携、認知症対策推進協議会

2023.2.2

<目次>

- (1) 課題別ワーキングの取組み報告**
 - (2) 在宅医療後方支援制度の実績報告**
 - (3) 徘徊保護高齢者への対応実績報告**
 - (4) 認知症初期集中支援チーム事例集について**
 - (5) 次年度の事業実施方針について**
 - (6) 意見交換**
- 「認知症高齢者への地域の見守り体制について」**

1. 課題別ワーキングの取組み報告

令和4年度の体制

在宅医療・介護連携、
認知症対策推進協議会

病院長会議
(在宅医療後方支
援体制)

医療・
介護連携WG

多職種連携
情報共有
システム普及
(ICT普及)WG

災害WG

課題別ワーキングの取り組み

- 医療・介護連携
- 多職種連携情報共有システム普及
- 災害

医療・介護連携ワーキング

【今年度の検討事項】

開催日：第1回 7/29 第2回 11/24

- 令和元年度の救急医療情報シートの活用割合や救急時の対応の状況などのアンケート調査結果の振り返り
- 令和4年度救急医療情報シートの活用割合や救急時の対応の状況など市内介護施設へ、アンケート調査の実施

【検討メンバー】

市内介護施設職員（4施設）、救急救命士、地域包括支援センター職員

【取り組みの内容】

- **救急医療情報シートの活用割合や救急時の対応の状況のアンケート調査を実施**
市内17施設中15施設回答あり

内容：救急医療情報シート、介護施設用シートの活用割合、延命処置の意向確認の有無の把握など

- **介護施設職員向け急変時対応講習会の実施予定**

令和5年2月8日（水）午後6時から実施予定

内容：心停止状態を発見した時の対応のシュミレーション等

救急医療情報シートに関わるアンケート調査結果(一部抜粋)

15施設が回答

1	回答者は、白井市救急医療情報シート・介護施設用シートについて知っていますか	知っている 14 (93%) 知らない 1 (7%)
2	嘱託医は、白井市救急医療情報シート・介護施設用シートについて知っていますか	知っている 10 (66.7%) 知らない 4 (26.7%) 未回答 1 (6.7%)
3	職員は、白井市救急医療情報シート・介護施設用シートについて知っていますか	全職員が知っている 4 (26.7%) ほとんどの職員が知っている 6 (40%) 一部の職員しか知らない 5 (33.3%)
4	貴施設において、入所者の救急医療情報シートは作成されていますか	はい 11 (73.3%) いいえ 4 (26.7%)
5	入所者の救急要請時に救急医療情報シート・介護施設用シートを活用した感想	<ul style="list-style-type: none">・救急隊への情報提供がスムーズに行えた 8 (53.3%)・シートを導入する以前と情報提供の効率性は変わらない 1 (7%) (その他)・便利だが、人手が少ないときに緊急対応で手一杯になるので、シートを書くのが大変なときもある。・何かあったときに安心である

救急医療情報シートに関わるアンケート調査結果(一部抜粋)

15施設が回答

9	貴施設では延命処置について意向を確認していますか。	している 11 (73.3%) していない 2 (13.3%)
10	延命処置の意向を確認している場合は、いつ確認をしていますか。	入所時のみ 4 その他 7 ・入所時と状態が悪化したとき ・状態の悪化が予測されるとき ・意向確認は状態に応じて行っていたが、今年よりケアプラン更新に合わせて行う。 ・入所時、入院時、確認が必要なとき ・入所時と意向に変更があったとき
11	延命処置の意向を確認している場合、定期的に見直しを行っていますか。	見直しを行っている 6 (40%) 見直しは行っていない 6 (40%)
12	延命処置の意向を確認する際、課題になっていることはありますか。	ある 5 (33.3%) ・おおまかな意向しか伺っていないため、その時に再度確認することになってしまう。 ・入所時と考え方が変わる。家族間で意思が統一されていないことがある。 ・医療職の考える延命と一般の方が考える延命のイメージが違う ・タイミング ・家族が考える延命と介護や医療が考える延命に相違がないようにする。 ない 7 (46.7%)

救急医療情報シートに関わるアンケート調査結果(一部抜粋)

15施設が回答

13	ACP (アドバンスケアプランニング)の取り組みを実施していますか。	<p>取り組んでいる 5 (33.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアの必要な入居者家族をカンファレンスに呼んでいる ・本人の状態に低下がみられるとき ・必要がでてきたら医師から説明をしている ・家族面談時 ・病状に変化があった際、往診医を踏まえ、話すようにしている <p>取り組んでいない 6 (40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特養での生活に必要性を感じない、必要時に検討は行うが、法人の考え方に介護と医療は別物という考えがある
14	貴施設では救命講習会を年間何回開催していますか。	<p>0回 9施設 1回 4施設 2回 2施設</p>
15	救命講習をしている場合どのような内容を実施していますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの使用方法、救命処置、救急搬送の際の関係各所への連絡方法 ・消防訓練時に人工呼吸、心肺蘇生法、AEDの使用方法
17	消防署では様々な救命講習を準備していますが、 <u>希望したい講習会の種類</u> はありますか。 ※複数回答あり	<p>心肺蘇生法 8 AEDの使い方 8 窒息の応急処置 8 外傷の手当 3</p>

介護施設職員向け 講習会開催

急変時対応講習会

【急変時対応シュミレーショントレーニング】

利用者さんが急変！！
あなたならどう対応しますか？

日頃の介護サービス現場では、思いがけない事故や急変に遭遇することがあります。この講習会で、とっさの緊急事態に対応できる技術と「あれ、いつもと様子が違うな」と感じたときに観察するポイントや医療者への報告の仕方を学び、明日からの業務に役立てていただきたいと思います。



参加
無料

日時

令和5年2月8日(水)

午後6:00～午後8:00

会場

白井市保健福祉センター3階団体活動室

講師

日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター
小田 有哉 医師

対象

白井市内の介護施設職員(介護職員、看護師等)

内容

・心肺停止状態を発見した時の対応シミュレーション
・いつもと様子が違うと感じたときや思いがけない事故
(転倒や窒息など)の際の観察ポイントと対応

1月31日(火)までにメール又は専用ファックス送信票でお申込みください
メール:houkatsu-suishin@city.shiroi.chiba.jp 問い合わせ:047-497-3484
主催:白井市高齢者福祉課地域包括ケア推進係 協力:印西地区消防組合消防本部

多職種連携情報共有システム普及検討部会

【今年度の検討事項】

開催日：第1回 9/1

体験会の実施：12/16

●医療・介護関係者へのシステム利用普及啓発

- ・ワーキング

システムの運用実績について報告、運用の課題について

- ・体験会の実施

【検討メンバー】

医師、歯科医師、薬局薬剤師、市内3病院関係者（事務、MSW等）
看護師、訪問看護師、訪問リハビリ理学療法士、ケアマネジャー、
ヘルパー、救急救命士

【取り組みの内容】

医療・介護関係者へのシステム利用普及啓発

- バイタルリンク活用説明会 6/29

登録していない事業所向けの説明会を実施

⇒新たに5事業所の登録あり

- バイタルリンク活用体験会 12/16

登録している事業所で活用できていない方向けの体験会を実施

⇒6事業所が参加

- アカウント登録発行数

令和4年3月末 60件 → 令和5年1月末 **75件**

災害ワーキング

【今年度の検討事項】

市全体の方向性が示されていないため、ワーキングとしては開催せず、職員の知識の向上と関係課での意見交換などを実施した。

避難行動要支援者名簿に記載がある人で、ハザードマップ上土砂災害警戒区域に自宅がある2名に、モデル的に個別避難計画作成のため訪問を実施した。個別避難計画作成にあたり課題等を把握した。

※避難行動要支援者とは

危機管理課から申請を促す個別通知をする者

⇒介護認定者（要介護3以上）

⇒障害者（視覚障害・聴覚障害・上肢機能障害1～2級、下肢機能障害1～3級、呼吸器機能障害1～2級、呼吸器機能障害1～2級）知的障害（○A又はA）、精神障害1級

自ら申請を行う者

⇒避難支援を希望する人

【取り組み内容】

● 9 / 1 6

「市町村防災力強化専門研修～要配慮者・避難行動要支援者に関する実務研修～」に参加。

● 8月、11月

危機管理課、障害福祉課、高齢者福祉課職員で打ち合わせ

● 1 2 / 8

モデル的個別避難計画作成のため自宅へ訪問
(谷田地区・要支援2)

● 1 / 2 3

モデル的個別避難計画作成のため自宅へ訪問
(平塚地区・介護度5)

【モデル的個別避難計画作成のための訪問から見たこと】

- 計画作成をすることで、改めて、家での防災意識が高められるきっかけが作れた。
- 避難するときに支援者がいるのか、それは誰なのか、いなければどうするかなど具体的に考えるきっかけが作れた。
- 在宅避難を余儀なくする場合、在宅での防災に対する意識、防災備品など備えを改めて伝えるきっかけとなった。

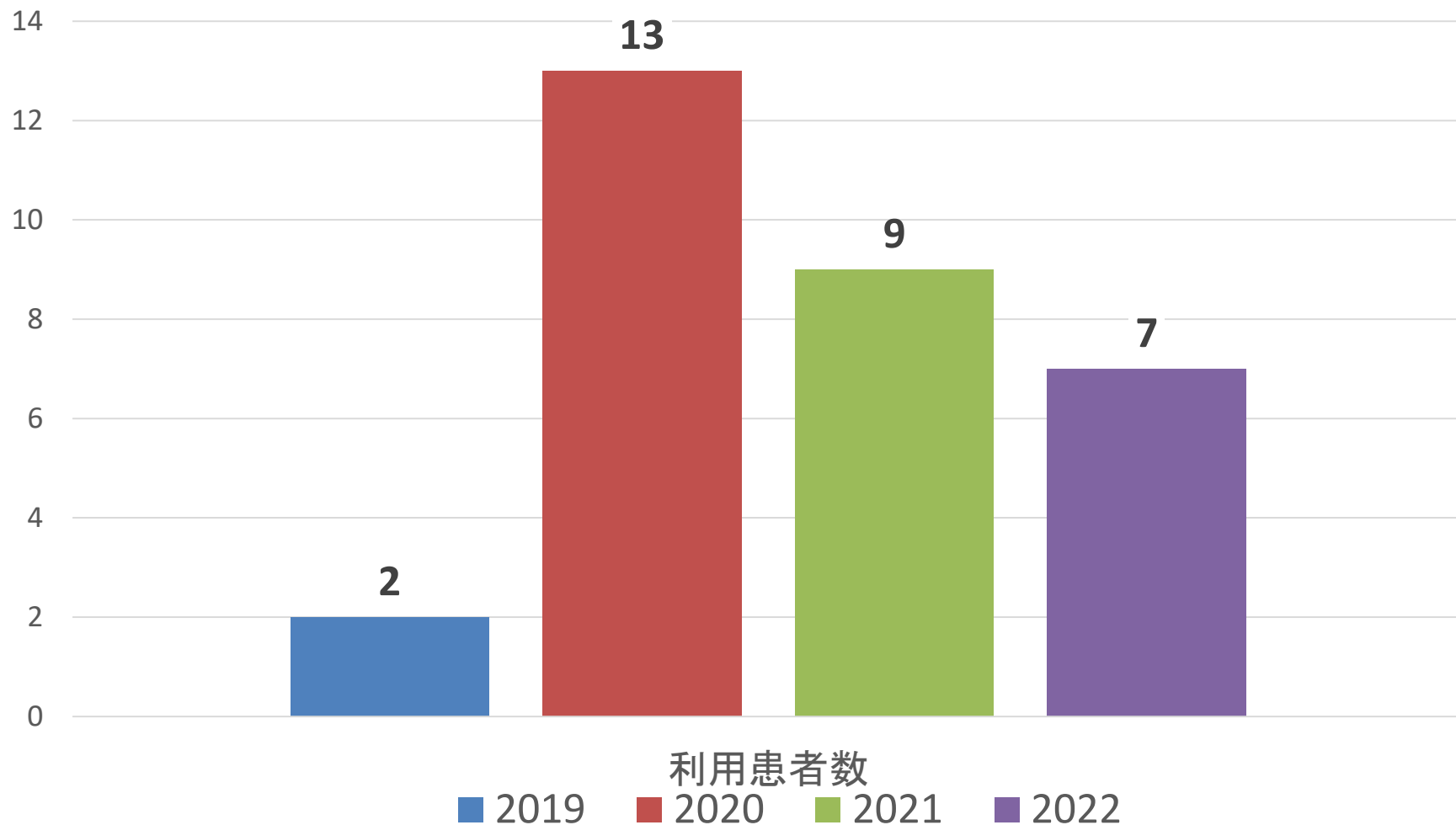
2.在宅医療後方支援制度の実績報告

在宅医療後方支援制度 登録者および利用者数

(2022年1月～12月末現在)

	白井聖仁会 病院	北総白井 病院	千葉白井 病院
登録 患者数	28		
利用 患者数	1	6	0

在宅医療後方支援制度利用患者数の推移



※制度運用開始は2019年4月1日 2022年は12月末現在の数

【白井市在宅医療後方支援制度についての課題等】

- ・バイタルリンクの使用方法等について院内で共有が十分にできていない。(病院側は日常運用ではないのでそれでも問題はない)
- ・登録患者の受診や入院は3件あった。
- ・情報提供の書類の管理について徹底してほしい。
- ・バイタルリンク活用についての個人差がある。

3. 徘徊保護高齢者への対応実績報告

徘徊保護高齢者への対応について

【情報提供】

情報提供の方法	令和2年度	令和3年度	令和4年度
千葉県内警察署からの情報提供 (情報提供について家族の同意ありの者) ※R4は12月末時点	28件	8件	23件
SOSネットワーク(防災無線依頼) ※R4は12月末時点	11件	13件	11件

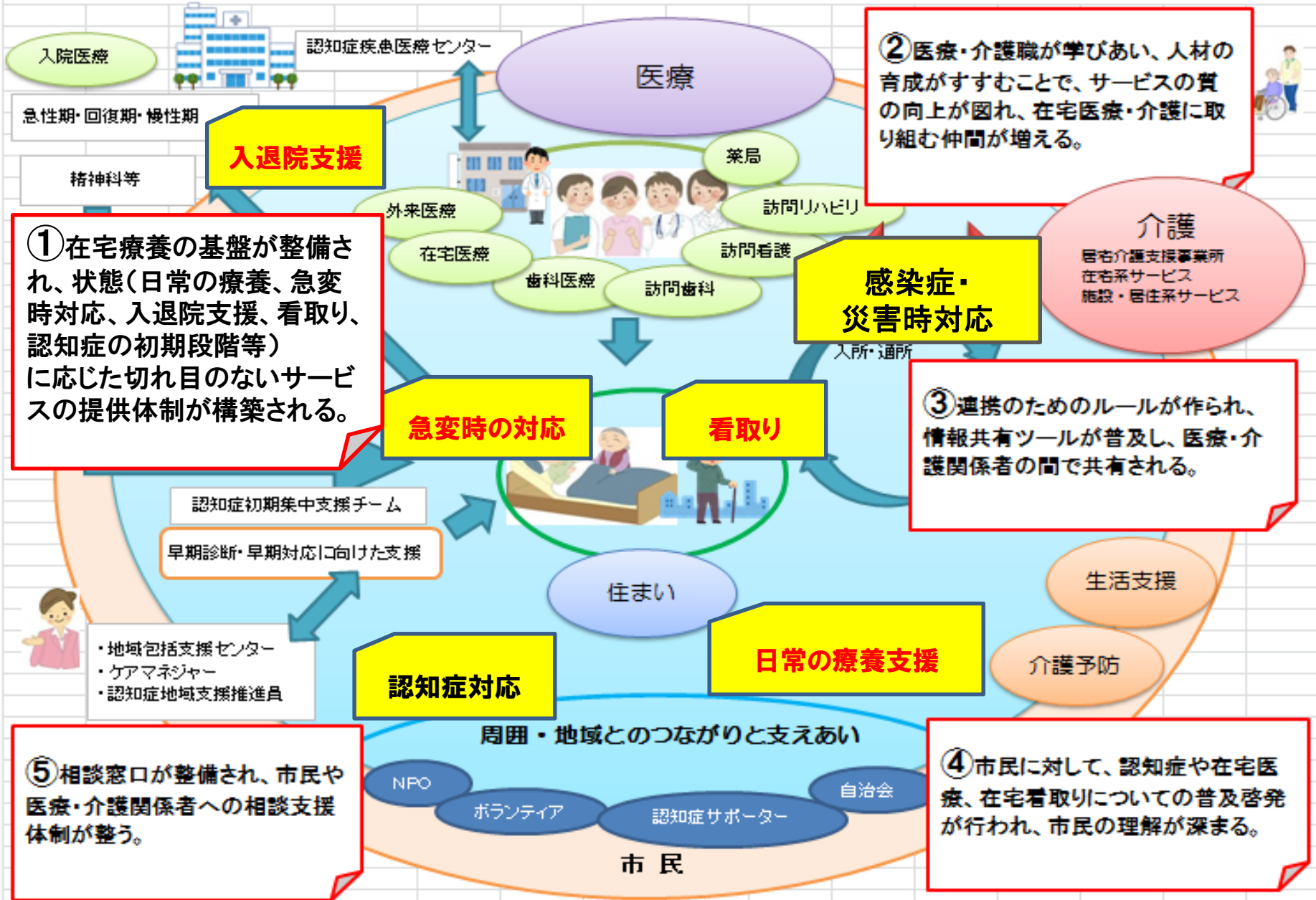
【対応結果】 ※支援フローチャートに基づいて対応実施。

対応内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ケアマネあり(情報共有・対応方法を検討、対応を引き継ぐ)	12件	7件	12件
ケアマネなし(各包括へ対応依頼、本人・家族へ連絡・訪問実施、状況に合わせて介護申請・見守り支援等につなぐ)	16件	1件	11件

4. 認知症初期集中支援チーム事業 事例集について

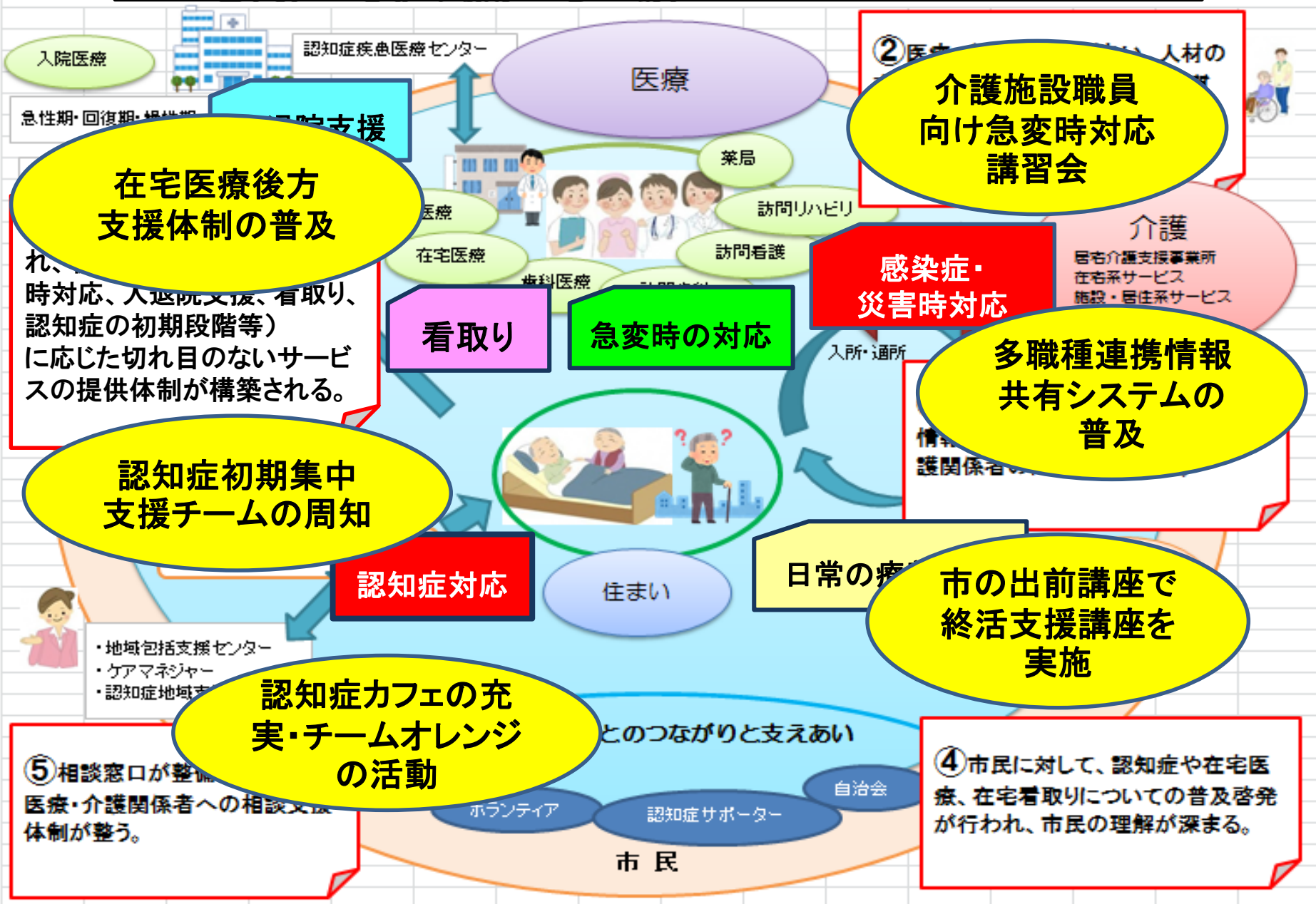
5. 次年度の事業実施方針について

住み慣れた地域で、最期まで暮らし続けることができるためには・・・



白井市の目指す姿 (5つの柱)

令和4年度の主な実績



在宅医療後方支援体制の普及

これ、
時対応、入退院支援、看取り、
認知症の初期段階等）
に応じた切れ目のないサービス
の提供体制が構築される。

**介護施設職員
向け急変時対応
講習会**

**感染症・
災害時対応**

**多職種連携情報
共有システムの
普及**

**認知症初期集中
支援チームの周知**

認知症対応

**市の出前講座で
終活支援講座を
実施**

**認知症カフェの充
実・チームオレンジ
の活動**

**⑤ 相談窓口が整備
医療・介護関係者への相談支援
体制が整う。**

**④ 市民に対して、認知症や在宅医
療、在宅看取りについての普及啓発
が行われ、市民の理解が深まる。**

とのつながりと支えあい

市民

令和5年度の事業実施方針

日常の療養
支援

在宅医療後方支援制度の普及、情報共有の推進、在宅療養への市民理解促進

入退院支援

入退院時連携ルールBook活用状況の把握、入退院支援に関わる医療機関と介護事業所等の意見交換会

急変時の
対応

介護事業所向け急変時対応講習会、医療・介護・消防（救急）の意見交換会、救急医療情報キットの普及

看取り

終活支援ノートやACPについて市民への普及啓発、介護関係者のACPへの理解醸成のための研修会

認知症対応

ケアパスの見直し、認知症カフェの拡充

感染症・
災害時対応

災害時の在宅療養者への対応検討（関係課、介護事業所）

6. 意見交換

下記について委員の皆様からお話を伺いたと思います。

認知症高齢者への地域の見守り体制について

